留学報告書
～上海での学びと出会い～

華東師範大学
国際文化学部（中期延長）

私は、中国の上海にある華東師範大学に約８か月間、長期留学をしました。家族旅行で海外に行った経験や、大学１年生の時に韓国へ短期留学をした経験はありましたが、中国を訪れるのは今回が初めてでした。私は姉の影響もあり、中学生の頃から「将来、どこかの国に留学してみたい」と考えていました。そのため、大学を選ぶ際にも留学制度が充実していることを重視し、名古屋学院大学に進学しました。しかし、当時は自分が中国に長期留学することになるとは思っていませんでした。

私が中国への留学を決めた理由の一つは、中国語を話せることに大きな可能性を感じたからです。世界中には中国語を話す人が多くいる一方で、英語と比べると中国語を学んでいる日本人はまだ少ないと知り、英語が話せることとはまた違った需要があるのではないかと考えました。また、大学で第二言語として中国語を学ぶ中で、中国語の授業を楽しいと感じるようになったことも、中国への留学を決めた大きな理由です。

留学前は自分の中国語力にあまり自信がありませんでした。それでも、以前から夢だった留学生活がついに始まることへの楽しみや期待の方が大きく、これからどのような経験ができるのか、とてもわくわくしていました。

私が留学した華東師範大学は、留学生が多く、キャンパスもとても広く、自然が多い大学でした。さまざまな国から来た学生が生活しているため、日本にいる時とは違う環境の中で、多くの人と交流することができました。私のクラスはHSK3級程度のレベルで、授業では主に中国語が使われ、補足として英語が使われることもありました。しかし、私は当時、中国語だけでなく英語も十分に理解することができなかったため、留学生活の初めは授業についていくことにとても苦労しました。

授業中は集中して話を聞き、授業が終わった後には必ず復習するようにしていました。分からない単語を調べたり、授業で習った内容を繰り返し確認したりすることで、少しずつ授業の内容を理解できるようになりました。また、先生やクラスメートも私にとても優しくしてくれました。私が理解できない時には、分かるまで何度も説明してくれました。クラスメートは日本に興味を持っている人も多く、休み時間にはたくさん話しかけてくれました。日本から持って行ったお土産のお菓子を渡した時も、とても喜んでくれました。

このような経験を通して、言葉が十分に通じなくても、相手とコミュニケーションを取りたいという気持ちがあれば、少しずつ距離を縮めることができるのだと感じました。同時に、自分が日本人であることを改めて意識する機会も多く、「日本に生まれてよかった」と感じることもありました。

中国で生活して一番強く感じたことは、生活を便利にするサービスが非常に多いことです。特に印象に残っているのが、電子決済の普及です。中国では電子決済が非常に普及しており、留学中に一度も現金を使いませんでした。コンビニやスーパーだけでなく、飲食店や屋台のような場所でも電子決済を利用することができ、スマートフォン一つで買い物をすることができました。また、電子決済は単なる支払い方法ではなく、さまざまな生活サービスとつながっていることも便利だと感じました。

例えば、飲食店のデリバリーサービスは多くのお店で利用することができました。スマートフォンから注文すると、寮まで料理を届けてもらうことができ、店内で食べるよりも安く済む場合もありました。ご飯は学校内の食堂で食べることが多いですが、忙しい時や疲れている時にも気軽に利用でき、留学生活の中で何度も助けられました。レンタサイクルも非常に便利でした。街中のさまざまな場所に自転車があり、スマートフォンを使って簡単に利用することができます。自転車を一か月間使い放題で利用できるサービスもあり、料金も日本と比べて非常に安く感じました。寮から教室や近くのショッピングモールに行くときなど、日常生活の中でよく利用していました。

このようなサービスは日本にもありますが、中国ではより身近で、多くの人が日常的に利用していることが印象的でした。電子決済、デリバリー、レンタサイクルなどがスマートフォンを中心につながっていることで、現金を持ち歩いたり、わざわざ店舗まで行ったりする必要が少なく、とても便利に生活することができました。

留学中にはずっと行きたかった北京に旅行しました。北京は韓国人の友達と一緒に、中国を代表する観光地である万里の長城やユニバーサルスタジオ北京などを訪れました。実際に歴史的な建造物を目の前にすると、日本で中国について学ぶのとは違った感覚がありました。また、上海とは街の雰囲気も異なり、同じ中国でも地域によって特徴が大きく違うことを感じました。

今回の留学の大きな目的は、中国語力を向上させることでした。実際に８か月間中国で生活し、中国語を使わなければならない環境に身を置いたことで、留学前よりも中国語を聞いたり話したりすることへの抵抗が少なくなりました。

しかし、留学を終えて振り返ると、中国語力の向上以上に大きなものを得ることができたと感じています。それは、一人で行動し、自分で考えて決断する力です。日本にいる時は、分からないことがあれば家族や友人にすぐ相談することができました。しかし、海外で生活していると、何か問題が起きた時に自分で考えて行動しなければなりません。言葉が通じず困った経験もありましたが、その一つ一つを乗り越えることで、以前よりも積極的に行動できるようになりました。また、文化や言葉の違う環境に身を置いたことで、自分から人に話しかけることや、分からないことでもまず挑戦してみることの大切さも学びました。

８か月間の留学生活は、楽しいことばかりではなく、困ったりすることもありました。そのような経験があったからこそ、自分自身の成長につながったのだと思います。

留学生活は終わってしまいましたが、約８か月間、中国で実際に生活し、学び、さまざまな人と出会った経験は、これからの自分にとって大きな財産になると思います。今回の留学で身につけた中国語力だけでなく、挑戦する気持ちや自分で考えて行動する力を、これからの就職活動やその後の人生にも生かしていきたいです。